【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成19年5月31日(2007.5.31)

【公表番号】特表2002-542300(P2002-542300A)
【公表日】平成14年12月10日(2002.12.10)
【出願番号】特願2000-613464(P2000-613464)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　39/395　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　1/16　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　9/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　11/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　13/12　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　19/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　29/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　39/395　Ｙ
Ａ６１Ｐ　1/16
Ａ６１Ｐ　9/00
Ａ６１Ｐ　11/00
Ａ６１Ｐ　13/12
Ａ６１Ｐ　17/00
Ａ６１Ｐ　17/02
Ａ６１Ｐ　19/02
Ａ６１Ｐ　25/00
Ａ６１Ｐ　27/02
Ａ６１Ｐ　29/00　１０１

【手続補正書】
【提出日】平成19年3月26日(2007.3.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　線維症状態を有する被験体に投与するのに適している、抗α４抗体ホモログを含む、組成物。
【請求項２】　前記抗体ホモログが、ヒト抗体、キメラ抗体、ヒト化抗体およびそれらのフラグメントからなる群から選択される、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】　前記組成物が、約０．１～約２０ｍｇ／ｋｇ体重を提供するような投薬量で投与するのに適している、請求項１に記載の組成物。
【請求項４】　請求項１に記載の組成物であって、ここで、前記抗体ホモログが、米国特許第５，８４０，２９９号の表６の配列の群または該核酸配列の相補体から選択された核酸配列に、高ストリンジェンシー条件下でハイブリダイズする核酸を含む核酸配列によってコードされるその一部分を有するヒト化抗体である、組成物。

【請求項５】　請求項１に記載の組成物であって、ここで、前記抗体ホモログが、米国特許第５，８４０，２００号の表６の核酸配列の群または該核酸配列の相補体から選択された核酸配列に、低ストリンジェンシー条件下でハイブリダイズする核酸を含む核酸配列によってコードされるその一部分を有するヒト化抗体である、組成物。

【請求項６】　請求項１に記載の組成物であって、ここで、前記抗体ホモログが、ポリペプチド配列をコードする核酸配列に、低ストリンジェンシー条件下でハイブリダイズする核酸を含む核酸配列によってコードされるその一部分を有するヒト化抗体であり、該ポリペプチド配列が、以下：ａ）米国特許第５，９３２，２１４号に見出される配列番号２；ｂ）米国特許第５，９３２，２１４号に見出される配列番号４；およびｃ）細胞株ＡＴＣＣ　ＣＲＬ　１１１７５によって産生される抗体の可変ドメインからなる群から選択される、組成物。

【請求項７】　請求項１に記載の組成物であって、ここで、前記抗体ホモログが、ポリペプチド配列をコードする核酸配列に、高ストリンジェンシー条件下でハイブリダイズする核酸を含む核酸配列によってコードされるその一部分を有するヒト化抗体であり、該ポリペプチド配列が、以下：ａ）米国特許第５，９３２，２１４号に見出される配列番号２；ｂ）米国特許第５，９３２，２１４号に見出される配列番号４；およびｃ）細胞株ＡＴＣＣ　ＣＲＬ　１１１７５によって産生される抗体の可変ドメインからなる群から選択される、組成物。

【請求項８】　被験体における線維症を処置するための組成物であって、該組成物は、治療的有効量のＶＬＡ－１アンタゴニストを含む、組成物。

【請求項９】　被験体における線維症状態を処置するための薬学的組成物の調整のための、α４サブユニット保有インテグリンとα４サブユニット保有インテグリンのリガンドとの間の相互作用のアンタゴニストである抗体ホモログを含む組成物の使用。

【請求項１０】　前記線維症が内部器官の線維症である、請求項９に記載の使用。

【請求項１１】　前記内部器官が、肝臓、肺、腎臓、心臓血管、胃腸管である、請求項１０に記載の使用。

【請求項１２】　前記被験体は、肺線維症、骨髄線維症、肝硬変、メサンギウム増殖性糸球体腎炎、半月形糸球体腎炎、糖尿病性ネフロパシー、腎間質性線維症、またはＨＩＶ関連ネフロパシーを患っている、請求項９に記載の使用。

【請求項１３】　前記線維症は皮膚線維症である、請求項９に記載の使用。

【請求項１４】　前記被験体は、強皮症、限局性強皮症、ケロイド、過形成性瘢痕、家族性皮膚コラゲノーマまたはコラーゲン型の結合組織母斑を患っている、請求項１３に記載の使用。

【請求項１５】　前記線維症は眼の線維症である、請求項９に記載の使用。

【請求項１６】　前記被験体は、糖尿病性網膜症、術後瘢痕または増殖性硝子体網膜症を患っている、請求項１５に記載の使用。

【請求項１７】　前記抗体またはそのフラグメントは、ヒト化抗体、ヒト抗体もしくはキメラ抗体、またはヒト化抗体のフラグメント、ヒト抗体のフラグメント、もしくはキメラ抗体のフラグメントである、請求項９～１６のいずれか１項に記載の使用。

【請求項１８】　前記薬学的組成物は、
（ａ）０．１ｍｇ／ｋｇ／日～１０ｍｇ／ｋｇ／日の用量で；
（ｂ）１～１４日間の投与期間にわたって；および
（ｃ）１ｍｇ／ｍｌ以上の該抗体もしくはそのフラグメントの血漿レベルを維持するに十分な量で、
投与されるように構成されている、請求項９～１７のいずれか１項に記載の使用。

【請求項１９】　前記抗体もしくはそのフラグメントは、ヒト化マウス２１．６抗体またはそのフラグメントである、請求項９～１８のいずれか１項に記載の使用。

【請求項２０】　前記被験体はヒトである、請求項９～１９のいずれか１項に記載の使用。